

演心力～広げよう演劇の輪～

講評速報 10号

12月25日(水)

【岐阜】

津島北高等学校

ジンコちゃんの世界

生物のテストで赤点を取ってしまったサチコは、赤点を免れる条件にミジンコ観察レポートの提出を求められ、ミジンコの視点で10日間の物語を描くことにした。

舞台装置は何も置かれていなかったが、役者の演技や動きで観客の想像力を膨らませていた。音響も、音源を使わずに肉声だけでチャイムの音や歌を表現していたことに、技術力の高さを感じた。照明では、真っ暗な舞台に小さくスポットライトを当てることで池を表すという発想に驚いた。緞帳が降りる直前に暗転したことについて、「余韻を感じられて良かった」という意見も出たが、逆に「暗くすることで明るい未来を閉ざしてしまっているように感じた」という意見も出た。

人数の多さを活かした演出がされていた。特に、合唱をする際にパートを細かく分けることで歌声に厚みを生んでいた。また、最後のジンコが独唱している場面で、ジンコの孫たちや他の生き物が大きな波にのまれていく所が、サチコの家族を襲った津波を表現しているように見えた。登場人物の衣装を色で分けていたが、ミジンコの薄いピンクと生徒の白の区別が付きにくいという意見もあった。役者全員が前髪を上げることで表情が分かりやすく、登場人物の感情が読み取りやすかった。

サチコがジンコの孫たちを池に放す場面では、ジンコが行きたがっていた外の世界を見せてあげたいという思いを感じた。それと同時に、「生きろ！」と叫んだサチコ自身が今いる環境から一歩踏み出そうとする気持ちも感じられた。また、サチコの「生きろ！」というセリフはジンコの孫たちに言っているように捉えることができ、サチコが自分自身に言っているようにも捉えることができた。最後にサチコが「ハッピーバースデー私！」という場面では、それまで休眠卵だったサチコが家族の死を受け入れて前に進もうという決意が表れていた。

私たちの話し合いの中で、「命の大切さ」がテーマであると考えた。サチコの家族の死に対する思いが描かれているという点や、ミジンコやミドリムシたちの食物連鎖の儚さからそのように考えられた。この二点から、何かを犠牲にして生きているからこそ、命を大切にしようと強く感じた。